

## 川崎市・面接

①：長い時間待たせたけど、待ち時間はどうやって過ごしましたか？

私：グループディスカッションで一緒だった人とご飯を食べて、  
カフェで話をしながら、待機していました。

①：言いにくいかもしれないけれど、  
**どんな話**をしたのか、教えてください。

私：午前中のディスカッションの話や、  
この面接に向けての話、  
川崎市についての話、  
お互いの学校生活の話など、様々な事を話しました。

①：わかりました。  
学生生活と言えば、あなたは**臨床心理学講座**で学んだとありますね。  
入学した時点でこの講座に所属したのですか？

私：いえ、2年生の時に配属されますが、  
私は大学を志望する時点で、この講座を目指しておりました。

①：わかりました。  
どうして、この学部・学科・講座を志望したのですか？

私：はい、もともと**幼稚園教諭**を目指しておりましたので、  
幼稚園教諭の資格がとれる学部・学科を志望しました。  
また、保育学に加え、心理学を学ぶことに魅力を感じました。

①：面接カードに、『教員をめざして～』と書いてあるが、  
これは**幼稚園の先生**ということでしょうか？

私：はい。ただ学校のカリキュラムの都合上、  
**小学校教諭の免許取得**も目指しております。

①：わかりました。そうすると、実習には既に行かれたのですか？

私：はい、今年の6月と9月の2回、  
付属幼稚園で実習を行います。  
6月の実習は終了したので、次は9月に実習に行きます。

①：忙しいですね。公務員試験とかぶって大変だったでしょ？

私：はい。  
6月は、平日は実習、土曜日はハンドベルクワイアの練習、  
日曜日は試験、というかなりのハードスケジュールでしたが、  
体力には自信がありますので、**(←さりげないPRが上手い)**  
無事に乗り切ることが出来ました。

①：わかりました。  
幼稚園の先生にはならず、  
公務員を目指しているわけだけれど、  
公務員、その中でも子育てに携わりたいと思ったきっかけはありますか？

私：はい。小学校教材研究社会科という教職の授業の中で、  
子どもは「地域を学ぶ」のではなく  
『地域で学ぶ』という言葉に出会いました。

それまでは、『子どもは学校で学ぶ』という意識が強かったのですが、  
この言葉を受けて、  
子どもは地域の中で育つということに気が付き、  
地域と子どもという分野に興味を持つようになりました。

子どもたちが自分で町にすんで、  
また、実際に歩いた時に誇り思えるようなまちづくり、  
子どもが安全に過ごせるまちづくり、  
地域ぐるみの子育てなど、  
『子どもを、教育以外の多角的な面で支えていく』ということに興味をもち、  
行政を志望いたしました。

①：その言葉に出会って、すぐに公務員を目指したのですか？

私：すぐに、というわけではありません。  
もともと父親が公務員で、  
私自身、公務員の仕事に興味があったということもあり、  
この言葉を受けて、  
徐々に公務員を志望するようになりました。

①：わかりました。公務員試験の勉強を始めたのはいつですか？

私：大学3年の春からです。

①：志望先を決めたのはいつですか？

私：夏ごろだったと思います。

①：カードに特別区(一次不合格)、川崎市、厚生労働省志望と書いてあるけど、  
志望の順位を教えてください。

私：川崎市 → 特別区 → 厚生労働省です。

①：国家一般職の面接は終わりましたか？  
面接はどうでしたか？

私：はい、先週人事院面接を受けてきました。  
生ぬるい面接といったら語弊があるかもしれませんが(面接官3人が笑う)、  
20分たらずという短い時間で、  
あまり掘り下げの質問もなかったので、  
自分の自己PRが思うほど出来なかったなという印象です。

①：これらの志望先を決める上で、どうやって情報を集めましたか？

私：はい、説明会に参加し、HPを参考にしました。  
また、かわさきナビゲーターを利用しました。

①：ナビゲーターはどうでしたか？

私：はい、大変勉強になるお話を伺いました。